

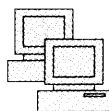
No.139



2002.4

- シリーズ“！”新しい電子情報サービス●100万冊を君の蔵書に「手にとって読め！」（附属図書館長）
●附属図書館総合整備計画●講演会・研修会報告●図書館の動き●利用セミナー計画

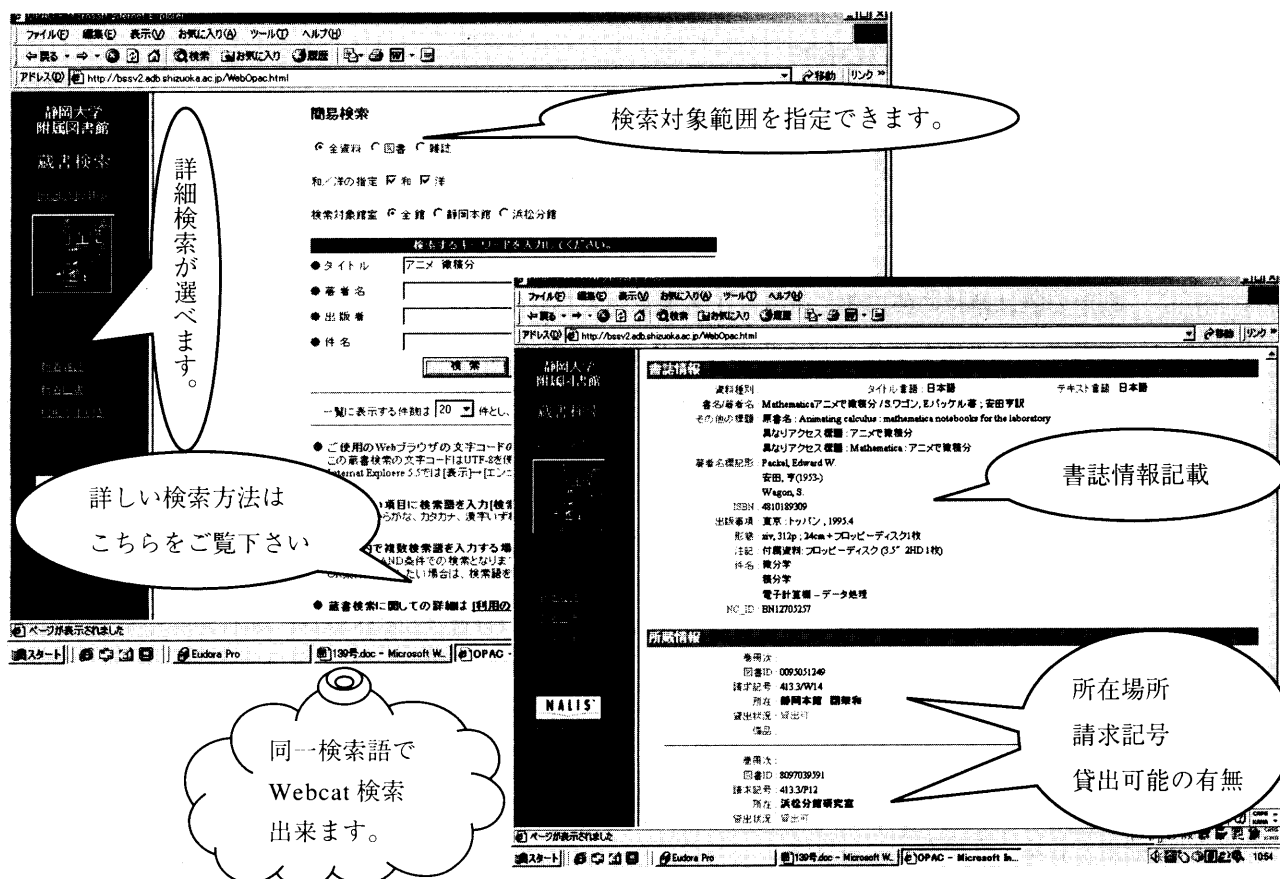
新しい電子情報サービスを開始しました。

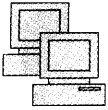


OPAC Renewal

静岡大学所蔵の図書・雑誌を検索するデータベースです。

検索方法・表示画面・レスポンス時間等が改善され大変使いやすくなりました。





電子ジャーナル

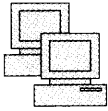
静岡大学は国立大学間で形成するコンソーシアムに参加して学術雑誌出版社5社の提供する有料電子ジャーナルを2002年1月から導入しました。

また、国立情報学研究所の電子情報サービスとして試験提供のOUP刊行電子ジャーナルも含め、現在利用できる電子ジャーナルは以下のものです。

図書館ホームページから利用できるようになっていますので、まずは図書館ホームページにアクセスしてみてください。

● Science Direct (Elsevier社)	863 誌	
● LINK (Springer社)	484 誌	
● InterScience (Wiley社)	389 誌	
● IDEAL (Academic Press社)	175 誌	
● Synergy (Blackwell社)	598 誌	
● OUP (Oxford Univ.Press)	127 誌	
● その他	約 107 誌	合計 2743誌

(2002.02.22現在)

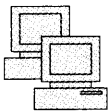


SwetScan (外国雑誌目次検索システム)

SwetScan はオランダのスウェッツ社が提供する、自然科学から人文科学に及ぶ約 15,000 タイトルの外国雑誌のコンテンツ情報をネットワークを通して閲覧・検索するシステムです。

キーワードや雑誌名を登録することにより、その結果を電子メールで研究室に配信するサービスができます。OPACにもリンクされているので資料の有無をその場で確認することもできます。

図書館ホームページより検索・閲覧できます。



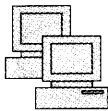
SciFinder Scholar

SciFinder は、化学を中心とする医薬・生化学・物理・工学・農学等を包含する世界で最も広範囲に収録された科学情報データベースで大学研究者にとって必須の2次資料です。

従来の Chemical Abstracts、CA on CD に代わるものとして導入したもので、図書館では閲覧室のパソコン1台に検索ソフトをインストールしてあります。

利用の際は備付の使用簿に所属・氏名等を記入してください。

研究室での利用も検索ソフトの設定が必要ですので利用の際は、本館はレファレンスカウンター分館はサービスカウンターで、手続きをしてください。



DLS (デジタルライブラリーシステム)

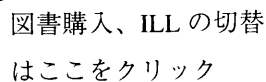
デジタルライブラリーシステムは、CD-ROMジュークボックスに大量のCD-ROMを格納しそれらを閲覧室のパソコンから検索・利用するシステムです。

現在本館では、CD-ROM 53枚・DVD-ROM 1枚が、分館ではCD-ROM 96枚が利用可能となっており、内容は科学・技術、文学・語学また、絵画・映画・音楽・旅 等で多岐に渡っています。ヘッドホンに耳にゆったりとお好きな分野のCD-ROMを鑑賞したり、そのほか辞書・図鑑・百科事典・新聞などがありますので授業やレポート作成等の勉学に役立ててください。

本館では4階コピー機の脇に、分館は1階検索コーナーに端末を各5台設置し、閉館時間まで利用できるようになっています。

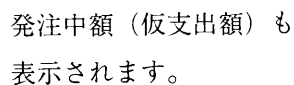
**研究室から図書購入依頼と ILL 依頼が
できるようになります。**

1. 図書館利用票番号（利用者 ID）とパスワードでログインできます。
2. サービス開始にあたってパスワードは全教官に発行します。
3. サービス対象は図書購入依頼は全教官、ILL 依頼は利用申請をした教官です。



利用者 ID とパスワードを入力

ほかにもオンラインで



図書購入依頼に関すること・・・図書情報係（内線 2807） e-mail：lib-book@adb.shizuoka.ac.jp
ILL 依頼に関すること・・・レファレンス係（内線 2903） e-mail：lib-refer@adb.shizuoka.ac.jp
浜松分館ご利用の方は・・・分館サービス係（内線 1391） e-mail：lib-hama@adb.shizuoka.ac.jp

100万冊を君の蔵書に、「手にとって読め」!

附属図書館長 大江泰一郎

100万冊余、これは本学附属図書館の蔵書数である（閲覧室からは見えない書庫のほうに開架図書の約10倍の本がある）。新入生諸君、そして各学部学生・大学院生の諸君、これをすべて君ひとりの蔵書にする術を伝授したい。

私自身いちおう人文社会科学系（法学）研究者の端くれであって、書物には人後に落ちない執着をもっている。若い頃には自分が研究に使う本はすべて自分の蔵書に収めるのだという気概もあって、ずいぶん古書店巡りもした。昼飯を抜いても本は買った（血を売って本を買う同僚もいた）。だが60歳に手が届くようになって、遅かりし！ やっと気がついた。資金の面からしても蔵書を収蔵するスペースからしても、第一自分の整理能力からしても、それはしよせん不可能だと知る（最近はお金が進んだせいかとくに文庫版など同じ本を何冊も購入しているケースがとみに増えた）。だが、わが図書館には100万超の蔵書があって、ずいぶん手狭になっているとはいえそれを納めるスペースもあり、目録を作ってきちんと配架してくれる専門職員（司書）もそろっている。これを勉強に教養のために利用しない手は無かろう。

どうするか？ 答えは簡単。図書館を勉強の場と思えばいい。しかしそのためには〈知的生産の手段〉が必要だ。図書カードである（生協購買部で100枚90円で売っている）。これに、自分が探している本、読んだ本の書誌データを記す。カードの表には著者（訳者）、書名、出版社、刊行年（初版と現行版）、それに3段の請求番号を書く。書き方は図書館のカードを見習えばいい。裏には簡単な読書ノートを作る。ノートといっても、自分が印象深く読んだセンテンスひとつあるいはキーワード、それが出ているページが記録されていれば、それでよし。一種のごく簡単な自分のためだけの索引ないしデータ・ベースをつくるのだ。たまるカードはクッキーの空き箱にでもいれて、枚数が増えてきたら著書名あるいは書名アルファベット順の見出しでもつければそれ以上言うことなし（ちなみに図書カードは、若者で利用者が多い小型ルーズリーフ式手帳のリフィルとサイズが全く同一であるから、それと一緒に整理できる）。1枚のカードは自分の蔵書1冊に該当する（これがミソである）。カードの数が自分の「蔵書」の数になる。蔵書の整理・管理は専門家まかせ。いっさい世話無し。2回目からは目標の本に即アクセス可能になる。卒業しても、大学附属図書館がいま努力している「社会貢献」のおかげで、このカードは生き続ける（遠隔地へ行ったら、その大学図書館あるいは公共図書館で請求番号だけ改めれば済む）。ただで自分の蔵書はこの4年間に少なくとも100万冊までは増やせるという話である。

むろん自分で買って手許に置かねばならない本はある。しかし、〈汚して〉つまり傍線を引き書き込みをしながら使わなければならないような本は、私の経験からすれば、100冊よくて50冊購入して1冊くらいのものである。あとの99冊あるいは49冊は〈斜め読み〉のための本、あるいは傑作と出会うための予備投資にすぎない。研究者でもなければ、これは図書館にまかせればいい。

インターネットが普及しても、教養書の圧倒的部分とくに自分の人生体験を擬似的に拡大する小説等の文学作品はハードコピーの書物に頼らざるをえない。図書館の本はわれわれにとってはいまももっとも刺激的で近づきやすいメディアなのである。

若いうちは自分とは異質のもの（すぐには歯が立たないようなもの）にも多く触れて触発されるのがいい。いわゆる濫読が必要なのだ。中世西欧最大の教養書の一つである『語源誌』を書いたセヴィーリヤの司教インドールスは、良書と「悪書」とを区別せず、司教館図書室の壁に「手にとって読め」(Toile et lege) という標語を刻んでいたという。ウンベルト・エーコの小説『薔薇の名前』の終幕、印象深い場面で、語り手役のアドソが今は廃墟となった修道院図書館の羊皮紙断片に見入っていると、聞こえてくるあの「天の声」がこれである（河島英昭訳、東京創元社、下巻381頁）。100万冊の宝の山も人が自分から手を出さなければ、ただの紙屑倉庫にすぎないという真理、これを極限まで圧縮した名言というべきであろう。「手にとれ」、100万冊はそのとき「100万本のバラ」になる。

いまこの文章を読んでいる君に言おう。万卷の書は図書館にあり。そうだ図書館、行こう、カードをもつて！ Tolle et lege！

(人文学部法学科比較法文化論)

附属図書館総合整備計画の平成13年度における展開

石 川 護

旧聞に属する事柄で恐縮だが、全学組織である図書館委員会は、昨年(平成12)の11月30日「静岡大学附属図書館総合整備計画(第一次)」を了承し、学内外に向けて今後6年間にわたって附属図書館が進むべき方向性について明らかにした。

この計画の目的を端的に述べるならば、昨今の大学改革にまつわる大きなうねりの中で、今後の静岡大学が活力と創造性を保ちつつ、優れた教育研究活動を展開していくための基盤として、学術情報を一元的に収集・整理・保存・提供する任務を負う組織たる附属図書館のこれまでの在り方を反省を込めて見直すこと。また、さまざまな現代的課題に対して、柔軟かつ迅速な対応が可能となるように、個々の図書館員の意識改革の推進を図ることと、合理的・計画的な発想の下に運営していくシステムを構築することであるといえる。

この稿では、計画の内容を詳述できないので、計画の全文は附属図書館ホームページ〔<http://www.lib.shizuoka.ac.jp/home.html>〕を参照していただければ幸いである。ここでは、計画の初年度に当たる平成13年度の具体的な取組状況について、いくつか紹介するに止めたい。

<平成13年度に検討または実施した事項の例>

1 教育研究資料の効率的収集及び運用関係(*計画の柱に対応。以下同じ。)

(1) 図書館の機構定員、運営方法の見直し等

利用者サービスの強化を重点に掲げ、それぞれの事務組織内の分担を見直すとともに、それに見合った定員の再配置を行うこととした。また、運営経費等の予算の縮減に努め、緊急な問題への対応を含め効率的な予算執行を行う素地を作った。

(2) 学生用図書を選定方法等の改善

学生用図書費の枠組みを変更することとし、学生からの図書購入希望に適切に応えられる仕組みとしたほか、基本的な全集・シリーズ等を確実に収集するため、図書館の判断において購入できるよう制度化した。

2 資料多様化への対応関係

学術情報資料の電子化に対応するため、電子ジャーナル及びインターネットによるデータベース提供サービスを積極的に導入することとして、平成14年1月から約2,700誌の電子ジャーナルを導入し、教員・学生等の大学構成員全てが閲覧できる環境を整えた。

3 知的財産享受のための環境整備関係

本館五階閲覧室の机・椅子の一部を更新するとともに、同閲覧室及び四階出入口付近の床の一部については、タイルカーペットとする改善が行われた。

これらの事項は、一例にしかすぎずこれ以外にも種々の事項に対応している。その全体像については、近々ホームページ上で公表することとしており、その際には、さまざまな意見等をお寄せいただきたいと思います。また、平成14年度においてもこの計画に則り、着実な推進が図られるよう努めていく予定であるので、ご理解とご支援を賜るようお願いしたい。

(附属図書館事務部長)

平成13年度図書館講演会・実務研修会を開催



[切り込み写真(右)は土屋館長、(左)は中野課長]

附属図書館では、1月23日、千葉大学附属図書館長土屋俊氏及び山口大学附属図書館情報管理課長中野美智子氏を講師にお招きし、「変革期に立つ大学図書館」をテーマに、静岡県大学図書館協議会との共催で図書館講演会を開催しました。

講演会には中井副学長をはじめ、附属図書館委員や多数の教官・事務職員、そして県内及び東海地区の大学等21機関からの参加も含め、約100名に上る参加者がありました。

千葉大学の土屋館長は、「大学改革の核としての大学図書館の姿」について講演され、その中で、大学改革と社会の情報化・国際化が同時に進行する過程における大学図書館の役割が如何に重要であるかについて述べられました。また、山口大学の中野課長は、「大学図書館統計データと図書館評価をめぐって」と題して、業務統計による分析・評価を図書館サービスの改善策に結びつけていくことの重要性と、比較統計分析に必要な図書館統計の標準化及び調査項目の見直し等について講演されました。

大学改革や大学構造改革が今まさに本格化しようとするこの時期における大学図書館の役割について、具体的な提示を行いながらの熱意あふれるお二人の講演に、参加者は共感を持って聴き入り、講師を囲んだ懇親会に入ってから、活発な意見交換が行われました。

また、当日午前中には、約40名の参加を得て、今年1月から静岡大学で新たに導入した「電子化資料」を中心に、静岡県大学図書館協議会の実務研修会を開催しました。

研修会前半の「電子ジャーナルの使い方」では、浜松医科大学の江口目録情報係長から、検索実習を含めた分かり易い説明をいただき、初めて電子ジャーナルを使用した参加者でも、世界の主要な出版社の電子ジャーナルを駆使して、求める検索結果を得ることができました。後半は、当館藤田参考調査係長が、「外国雑誌目次情報データベース (SwetScan)」、「図書館システム (NALIS)」、「DLS (デジタル・ライブラリー・システム) 等の紹介を含めた体験研修を行い、学内及び他大学からの参加者から、DLS等の素晴らしさを知り大変有意義な研修会であったとの評価をいただきました。



♪ 利用者窓口名称等変更のお知らせ ♪

【静岡本館】

知りたいことは？（主なもの）	ここに聴いたらわかる
◇ 開館時間や閉館時間について知りたい ◇ 図書の閲覧、貸出、返却方法について知りたい ◇ 書庫内資料の閲覧・貸出方法について知りたい ◇ 夜間入退館カードを利用したい（教官）	情報サービス係（内2901） （TEL：054-238-4479） （E-mail：lib-infsrv@adb.shizuoka.ac.jp） [カウンター]
◇ 他大学図書館の図書を借りたい ◇ 他大学図書館の文献の複写物を入手したい ◇ O P A Cの使い方を知りたい ◇ 電子ジャーナルや情報検索について知りたい ◇ コピーカードを利用したい（教官） ◇ その他、機器の利用について知りたい	レファレンス係（内2903） （TEL：054-238-4480） （E-mail：lib-refer@adb.shizuoka.ac.jp） [カウンター]
◇ 図書の購入を申し込みたい（教官） ◇ 図書購入予算の状況を知りたい（教官）	図書情報係（内2807） （TEL：054-238-4475） （E-mail：lib-book@adb.shizuoka.ac.jp）
◇ 雑誌の購入予約をしたい（教官） ◇ 雑誌の新着状況を知りたい	雑誌情報係（内2805） （TEL：054-238-4476） （E-mail：lib-serial@adb.shizuoka.ac.jp）

【浜松分館】

知りたいことは？	ここに聴いたらわかる
どんな時でも	分館サービス係（内1391） （053-478-1391） （E-mail：lib-hama@adb.shizuoka.ac.jp） [カウンター]

=====

 図 書 館 の 動 き

=====

◆人 事

平成14年1月4日付＜転出＞

滝浪 純子（総務係→理学部総務係）

平成14年1月31日付＜育児休業＞

村上 真佐子（目録情報係）

平成14年1月31日付＜採用（臨時的任用）＞

大村 悠紀子（目録情報係）

◆会 議

平成13年度第5回静岡大学附属図書館委員会

平成14年3月20日（水）

○審議事項

平成13年度附属図書館総合整備計画の進捗状況

○報告事項

1. 高度情報化委員会の検討状況
2. 電子ジャーナル等の導入経費の動向
3. 附属図書館利用学生モニター会議
4. 新しい情報サービス
5. 平成15年度概算要求事項
6. 平成14年度図書館利用セミナー
7. 静岡地区4・5階閲覧室の机及び椅子等の更新

《平成 14 年度附属図書館利用セミナー計画》

図書館では、図書館の有効的活用と、情報リテラシー教育支援のために以下のようなセミナーを計画しています。大学生活で図書館を十分に活用するために積極的に参加しましょう。

★ 静岡キャンパス

★ 図書館利用セミナー（新入生編）	— 4 月～ 6 月—	必須
新入生を対象に図書館利用についての全般的な案内をします。図書や雑誌の検索実習を中心に通常入れない書庫内の見学ツアーがあります。新入生セミナーの 1 コマで実施します。		
★ 図書館利用セミナー（編入生編）	— 6 月—	希望者
新入生のための図書館利用セミナーと同じ内容です。		
★ 図書館利用セミナー（中級編）	— 7 月—	希望者
まだ一度も図書館利用案内を受けていない学生（主に 2～3 年生）を対象に資料検索、インターネット検索、電子ジャーナル検索等を説明します。		
★ 図書館利用セミナー（上級編）	— 10 月—	希望者
卒論・修論作成のために必要な情報を、図書館の資料だけでなく広くデータベースやインターネットから入手する方法について説明します。		
★ 電子ジャーナル利用説明会	— 12 月—	希望者
学内で利用できる電子ジャーナルについての利用説明と検索実習をします。		

※これ以外、必要に応じて各種の説明会を実施します。

☆ 浜松キャンパス

☆ 図書館利用セミナー（新入生編）	— 4 月～ 6 月—	必須
新入生セミナーの 1 コマを利用して図書館利用についての全般的な案内をします。図書の探し方や借り方など、パソコンによる検索実習をまじえながら説明をします。		
☆ 図書館利用セミナー（上級編）	— 10 月—	希望者
雑誌論文が必要となる 3、4 年生および院生を対象としています。雑誌論文の検索の方法から入手の方法までのプロセスを説明します。具体的には、学内で利用できるデータベースやインターネット上の情報の検索実習や、検索で得られた論文で本学にないものを取寄せる方法などの説明をします。		
☆ 電子ジャーナル利用説明会	— 12 月—	希望者
学内で利用できる電子ジャーナルについての利用説明と検索実習をします。		

※これ以外、必要に応じて各種の説明会を実施します。